



昭和58年取り壊された観蜚橋 筆者撮影

皇が地方巡行の折矢島浦人川岸村長が案内し大変慶ばれたという逸話も残っている。橋名はそこから由来したものである。

◆「橋場」とは観蜚橋近辺のことを言い、店(酒・葉・下駄屋・食糧など)や旅館が30軒ほどある繁華街であった。夕方になると製糸工場の女工さんが、買い物を楽しみ大変にぎやかであった。

休日は辰野方面からも出店が来て、ランプの光で物売りの風景が見られた。

〔使用文献〕

おやかや歴史の道と資料 岡谷市教育委員会



昭和60年10月22日、新観蜚橋竣工祝風景 筆者撮影

・諏訪の今昔 郷土出版社・諏訪の交通史
諏訪教育会・天竜川紀行 柘植敏男・石
仏から見た民間信仰川岸編

横内達男・諏訪史料叢書 諏訪教育会・天
保13年(1842)寅年(12月)

鮎沢村阿弥陀堂古文書・諏訪藩主手元絵図
享保18年(1733) 諏訪史談会・駒沢

区誌・岡谷区誌

◆ 次回後編は「川岸駅と清水公園」

(岡谷市川岸東、元小井川区誌編纂委員・
川岸小学校150年誌編纂顧問)